

## 令和5年度第4回福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議に係る意見及び回答について

NO.	分類	質問、意見等	回答
1	会議中の質問 (後日回答となったもの)	若い世代への出前授業を行っているとのことだが、この授業で利用した資料はどのようなものを使っているのか。	<p>【資源エネルギー庁】 出前授業では、事故の概要や廃炉の現況、ALPS処理水の処分等について公表資料（適時開催される廃炉安全確保県民会議や廃炉・汚染水・処理水対策福島評議会の資料など）をベースに作成しています。（「出前授業資料」参照） また、説明資料にはイラストや写真を多く掲載している「廃炉未来」や「廃炉の大切な話」といったパンフレットを用いることもあります。</p> <p>廃炉未来：<a href="https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/images/HAIROMIRAI.pdf">https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/images/HAIROMIRAI.pdf</a> 廃炉の大切な話：<a href="https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/images/pamph2022.pdf">https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/images/pamph2022.pdf</a></p>
2	資料	資料2のP11「全国の中学・高校・大学を対象に出前授業を90回以上実施」という件について、会議で質問しましたが、追加として、出前授業を行った都道府県名と中学・高校・大学のそれぞれ実施した回数を教えてください。 実施後にアンケートをとっていましたら、結果について教えてください。 学校別の質問や意見もできれば詳しく知りたいです。	<p>【資源エネルギー庁】 処理水放出の方針を決定した2021年4月以降の開催実績は以下のとおりです。</p> <p>北海道：高校2回 宮城県：高校2回、大学1回 福島県：高校29回、大学2回、専門学校1回 山形県：高校1回、大学2回 群馬県：高校2回 埼玉県：高校4回 東京都：中学校1回、高校6回、大学4回 神奈川県：高校2回、大学3回 新潟県：大学2回 山梨県：高校1回 岐阜県：高校1回 静岡県：高校1回 滋賀県：高校1回 京都府：中学校1回、高校1回、大学1回 大阪府：高校1回 兵庫県：高校5回、大学2回 和歌山県：高校1回 岡山県：高校1回 福岡県：中学校2回 長崎県：大学7回 鹿児島県：高校1回</p>
3	資料	資料2のP11の3項目目について、県内の学校への出前授業実施回数について教えてください。進学、就職等で県外に出た際、自信をもって福島県産品やALPS処理水等の安全性を伝えられる存在であって欲しいという思いからの質問です。	「ALPS処理水の安全性について理解が深まった」、「風評被害が起こらないよう正確な知識を広めていきたい」等の学生の感想がありました。引き続き、福島第一原子力発電所の廃炉や汚染水・処理水対策などについて、将来を担う若い世代にも出前授業を通して説明を続けて参ります。

4	資料	<p>会議で「処理水ポータルサイト」へのアクセス数について、質問させていただき、大方の理解はしましたが、アクセス数の単位が聞き取れませんでした。海外からのアクセス数は国内の10倍でその半分は中国という理解で良いのでしょうか。</p> <p>また、何故、中国からのアクセスが多いのか、東電としての考えがあれば、お聞かせください。</p>	<p>【東京電力】 ご質問への返答に、わかりにくい部分あったようで、申し訳ありません。下記、ご確認頂けると幸いです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頂戴したご質問に対し、松本より以下の返答をさせて頂きました。 『まず、日本語のほうは、11月までの平均値でございますけれども、月間40万ページビューというような閲覧数でございました。海外向けの英語、中国語、韓国語版の平均アクセス数は月平均でいきますと4万6,000ページビューというような状況でございます、日本国内のほうが1桁上のほうのアクセス数であります。 また、海外の中でも大体半分が中国というような状況でございました。』</li> <li>・アクセス数の単位はPV（ページビュー）となります。該当するWebページへのアクセス数となります。</li> <li>・「海外版（英語、中国語、韓国語）」と「国内版（日本語）」へのアクセス数の比較に関しては、「国内版（日本語）」へのアクセス数が「海外版（英語、中国語、韓国語版）」へのアクセス数に比べて多い状況でございます。</li> <li>・中国からのアクセスについては、現在も日本産の海産物に対する禁輸措置が継続している状況であり海洋放出の関連情報を確認するために、中国語版のWebサイトにアクセスしているのではないかと推察致します。</li> </ul>
5	資料	<p>資料1のP37「燃料デブリの状態変化による再臨界への対処」とありますが、燃料デブリが再臨界するリスクはあるのでしょうか。</p> <p>燃料デブリの取り出しには、相当な年数を要すると思いますが、その間に再臨界のリスクにつながるような状態変化とはどのような変化でしょうか。また、対処とありますが、どのような対処方法を検討されているのでしょうか。</p>	<p>【東京電力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨界を起こすためには「臨界が起こりやすい燃料の配置」「適切な水の量」といった特殊な条件が必要であり容易ではありません。（原子力発電所では、綿密な計算に基づき、安定した臨界状態をつくります。） 現在、燃料デブリは燃料周辺の不純物と混ざり合い、形状が変わっています。また、水の量とのバランスも崩れており「臨界」を起こす条件とはほど遠い状況です。</li> <li>・また、燃料に含まれるウランが連鎖的に核分裂する「臨界」が再び起こる「再臨界」を検知するため、再臨界が起こった際に増加する「希ガス」の量を24時間常に計測し、監視をおこなっています。 現在、希ガスの発生量は安定していることから、再臨界にはいたっておりません。</li> <li>・さらに万が一、再臨界が起こったとしても、ホウ酸水を注入する設備によって、核分裂を抑制する対策をとっています。</li> </ul>
6	資料	<p>資料2について、「ハンズオン」などの言葉が出てくるが、もっと分かり易い言葉に変換可能であると思う。</p> <p>極力分かり易い言い回しにすることが、理解醸成を図る上で、また、会議をスムーズに進める上で大切かと思えます。</p>	<p>【資源エネルギー庁】 ハンズオンとは「実務に携わる」という意味で資料に記載させていただきました。 ご指摘を踏まえ、よりわかりやすい資料となるよう、改善を図って参ります。</p>